

2015年度 第3四半期 連結業績概要

2016年2月2日
ブラザー工業株式会社

当資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来の業績に関する見通しであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度等に関するさまざまなリスクや不確実要素により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

<10-12月期のポイント>

- ◆ 通信・プリンティング機器は、主に中国を中心とする新興国の需要減の影響により、減収となる
- ◆ 産業機器は、IT関連の需要減に加え、中国の景気減速の影響もあり、大幅な減収となる
- ◆ 営業利益は、P&Sのコストダウン効果及び販管費の減少が産業機器の減益をカバーし、既存事業ベースでは前年並みを確保

単位：億円

	14Q3累計	15Q3累計	増減率 (1)は為替影響除く増減率	14Q3	15Q3	増減率 (1)は為替影響除く増減率
売上高	5,214	5,697	9.3% (+5.9%)	1,968	1,986	0.9% (+2.0%)
営業利益	458	395	-13.7%	158	146	-7.7%
営業利益率	8.8%	6.9%		8.1%	7.4%	
経常利益	424	413	-2.6%	148	161	9.2%
特別損益	152	22		-8	11	
法人税等	94	178		29	52	
四半期純利益	482	257	-46.7%	110	121	9.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	481	253	-47.3%	109	120	9.6%
換算レート						
USD	107.27	121.49		114.39	121.07	
EUR	140.50	133.67		142.60	132.37	

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

2

第3四半期の売上高は、1,986億円となり、前年から18億円の増収となった。
ただ、ドミノ事業の新規連結効果が164億円あるため、既存事業ベースでは、減収となった。

為替の影響は、約▲20億円のマイナス影響となった。
内訳は、USドルで+30億円、ユーロで▲30億円、カナダ・ブラジル・豪州などの資源国や、新興国通貨で、▲20億円。

営業利益は、146億円となり、前年から▲12億円の減益となった。
P&S事業で、コストダウンや費用減の効果で25億円の増益となったが、産業機器が大きく落ち込んだことにより、M&S事業が▲25億円の減益となり、既存事業ベースではほぼ前年並みの利益水準。結果としては、ドミノ事業の分だけ、減益となった。

単位：億円

売上高

	14Q3累計		15Q3累計		14Q3		15Q3	
	14Q3累計	15Q3累計	増減率	現通へス増減率	14Q3	15Q3	増減率	現通へス増減率
全社	5,214	5,697	9.3%	5.9%	1,968	1,986	0.9%	2.0%
プリンティング & ソリューションズ	3,504	3,633	3.7%	0.3%	1,326	1,273	-4.0%	-2.2%
パーソナル & ホーム	385	415	7.7%	2.8%	166	163	-2.4%	-2.6%
マシナリー & ソリューション	734	658	-10.4%	-15.1%	265	164	-38.0%	-38.9%
ネットワーク & コンテンツ	351	408	16.2%	15.9%	126	137	8.5%	8.5%
工業用部品	129	136	5.6%	3.1%	43	46	6.6%	5.6%
ドミノ事業	-	332	-	-	-	164	-	-
その他	111	115	3.3%	3.3%	41	40	-3.5%	-3.5%

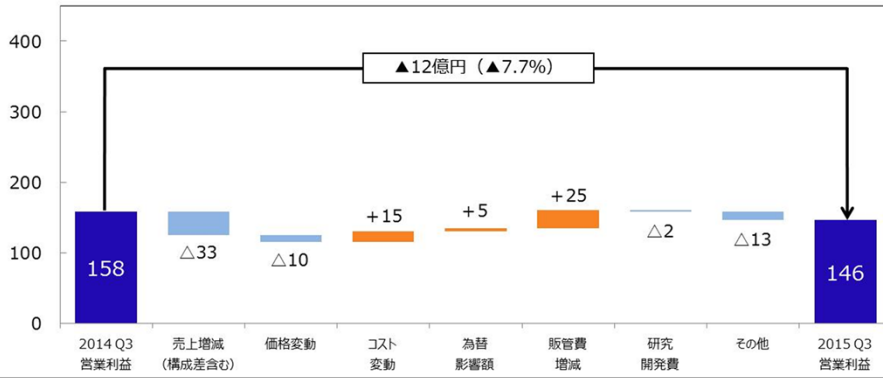
営業利益

	14Q3累計		15Q3累計		14Q3		15Q3	
	14Q3累計	15Q3累計	増減率		14Q3	15Q3	増減率	
全社	458	395	-13.7%		158	146	-7.7%	
プリンティング & ソリューションズ	303	274	-9.6%		93	117	26.9%	
パーソナル & ホーム	42	44	4.0%		22	18	-19.6%	
マシナリー & ソリューション	118	96	-18.3%		42	17	-60.0%	
ネットワーク & コンテンツ	-19	-5	-		-2	2	-	
工業用部品	2	6	216.7%		0	2	-	
ドミノ事業	-	-11	-		-	-12	-	
その他	12	9	-23.5%		4	3	-28.7%	
全社調整	-	-18	-		-	-0	-	

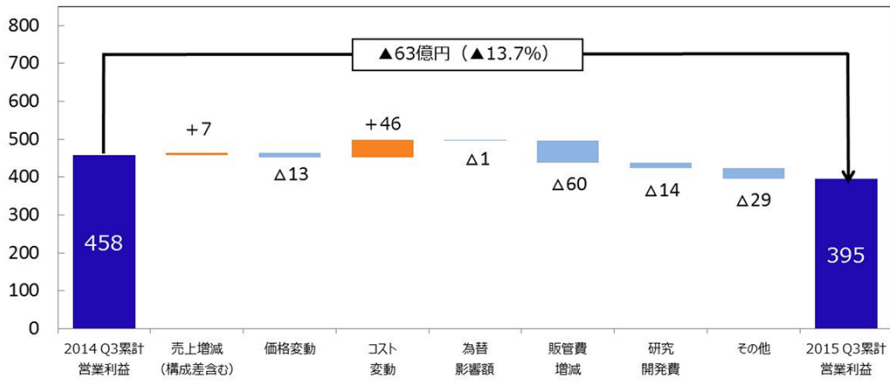
営業利益増減要因

単位：億円

第3四半期 (3ヶ月)



第3四半期 (累計)



- ◆ P&Sは、足下の状況を踏まえ、米州および中国を中心に、全地域の見通しを引き下げ
- ◆ 産業機器は、中国の景気減速による需要の落ち込みや、IT向けの需要回復の遅れを踏まえ、見通しを引き下げ
- ◆ 営業利益は、M&SおよびN&Cの見通しを中心に、各事業とも着地を見据えた水準へと下方修正

単位：億円

	15通期予想	前回予想	増減率	14年度通期	増減率 ()は為替影響除く増減率
売上高	7,550	8,000	-5.6%	7,072	6.8% (+5.3%)
営業利益	430	500	-14.0%	575	-25.3%
営業利益率	5.7%	6.3%		8.1%	
経常利益	450	485	-7.2%	516	-12.7%
特別損益	10	15		138	
法人税等	175	180		116	
当期純利益	285	320	-10.9%	538	-47.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	280	315	-11.1%	540	-48.1%
換算レート					
USD	120.73	120.81		110.03	
EUR	132.65	134.78		138.68	

© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

5

業績予想の修正について

売上高は、前回見通しの8,000億円を▲450億円引き下げ、7,550億円へ引き下げ。今期は期初から非常に高い目標値を掲げて進めてきたが、足元における景気減速の影響等を考慮し、着地を見据えた現実的な目線へ、全ての事業の見通しを引き下げ。

営業利益についても同様に、着地を見据え、前回から▲70億円引き下げとなる、430億円へと下方修正。

これにより、親会社株主に帰属する当期純利益も、前回から▲35億円の引き下げとなる、280億円となる見通し。

単位：億円

売上高

	15通期予想			14通期		
	前回予想	増減率	対前年増減率	対前年増減率	現通期→15通期増減率	
全社	7,550	8,000	-5.6%	7,072	6.8%	5.3%
プリンティング & ソリューションズ	4,817	5,065	-4.9%	4,743	1.6%	0.4%
パーソナル & ホーム	531	545	-2.6%	514	3.2%	0.5%
マシナリー & ソリューション	835	983	-15.1%	1,006	-17.0%	-20.1%
ネットワーク & コンテンツ	555	575	-3.5%	490	13.4%	13.1%
工業用部品	185	195	-5.1%	174	6.1%	4.7%
ドミノ事業	484	500	-3.2%	-	-	-
その他	143	137	4.4%	145	-1.5%	-2.0%

営業利益

	15通期予想			14通期	
	前回予想	増減率	対前年増減率	対前年増減率	
全社	430	500	-14.0%	575	-25.3%
プリンティング & ソリューションズ	306	326	-6.1%	357	-14.3%
パーソナル & ホーム	45	53	-15.1%	49	-8.7%
マシナリー & ソリューション	99	134	-26.1%	162	-39.0%
ネットワーク & コンテンツ	2	12	-83.3%	-9	-
工業用部品	8	10	-20.0%	3	179.0%
ドミノ事業	-22	-27	18.5%	-	-
その他	10	10	0.0%	12	-19.3%
全社調整	-18	-18	0.0%	-	-

米州及び中国の見通しを引き下げ

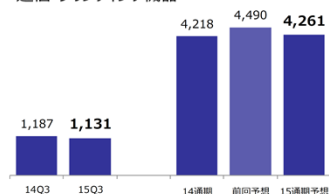
- ・先進国におけるセルアウトの状況は堅調なもの、目標へは届かない見通し
- ・景気減速の影響を受け、中国の見通しを引き下げ



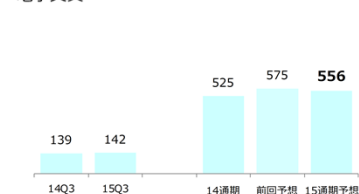
単位：億円

	14Q3	15Q3	伸び率	現通ベース 伸び率	14通期	前回予想	15通期予想	対前年 伸び率	対前年 現通ベース 伸び率
売上高	1,326	1,273	-4.0%	-2.2%	4,743	5,065	4,817	1.6%	0.4%
通信・プリンティング機器	1,187	1,131	-4.7%	-2.8%	4,218	4,490	4,261	1.0%	0.1%
米州	470	458	-2.5%	-4.2%	1,680	1,845	1,765	5.1%	-0.3%
欧州	396	381	-3.7%	2.4%	1,417	1,414	1,367	-3.5%	0.1%
アジア他	188	158	-16.3%	-12.9%	694	752	659	-5.0%	-5.4%
日本	133	134	1.0%	1.0%	427	479	470	10.0%	10.0%
電子文具	139	142	2.0%	2.8%	525	575	556	6.0%	3.5%
米州	66	71	7.3%	4.5%	253	289	280	10.6%	3.8%
欧州	42	41	-2.6%	3.2%	158	162	159	0.8%	4.2%
アジア他	22	21	-4.7%	-2.1%	78	84	77	-1.8%	-3.4%
日本	8	8	0.8%	0.8%	35	40	40	13.5%	13.5%
営業利益	93	117			357	326	306		

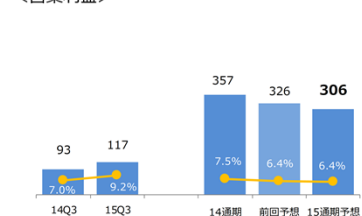
<売上高>
通信・プリンティング機器



<売上高>
電子文具



<営業利益>



© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

7

通信プリンティング機器の第3四半期の地域別売上高は、米州およびアジア地域でマイナスとなった。

米国に関しては、セルインは前年比でマイナスとなったが、リテール市場のセルアウトは前年と同水準となっており、需要が大きく落ち込んでいるという印象は無い。

セルインの減少については、前年は新製品の発売があったため、そもそもハードルが高かった部分があるという認識。

営業利益は、コストダウンや費用削減などもあり、増益を確保。

通期の見通しについては、足下の状況および着地水準を見据え、売上高は前回から▲248億円、営業利益は▲20億円の下方修正。

現地通貨ベースでの通信プリンティング機器の地域別の修正額は、米州で約▲70億円、中国・アジアで▲90億円となっており、下方修正はほぼこの2地域の引き下げによるもの。

米州については、期初から掲げてきた意欲的な目標を現実的な目線に落とした影響が大きい。中国・アジアの引き下げについては、実需が弱い点を織り込んだ部分があるが、ある程度現実的な目線まで修正したという認識。

営業利益については、売上の減や、為替レートの見直しによるマイナス影響などがあるが、費用削減等である程度吸収することを見込み、▲20億円の引き下げとした。

北米・西欧での需要は堅調に推移

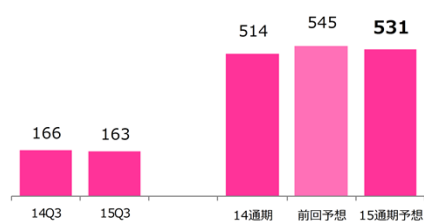
- ・北米は製品投入サイクルの影響による反動減により、Q3は減収となる
- ・欧州はロシア低迷も、西欧では好調が続く



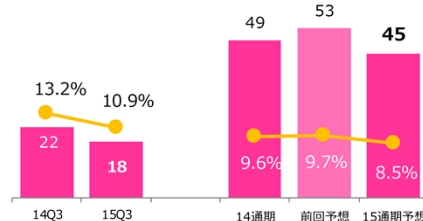
単位：億円

	14Q3	15Q3	伸び率	現通年 伸び率	14通期	前回予想	15通期予想	対前年 伸び率	対前年 現通年 伸び率
売上高	166	163	-2.4%	-2.6%	514	545	531	3.2%	0.4%
米州	104	101	-2.2%	-5.8%	296	330	317	7.1%	0.7%
欧州	35	34	-3.6%	3.8%	111	100	102	-8.4%	-3.7%
アジア他	18	17	-6.3%	-2.0%	60	67	65	9.1%	7.6%
日本	10	11	7.3%	7.3%	48	48	47	-1.1%	-1.1%
営業利益	22	18			49	53	45		

<売上高>



<営業利益>



第3四半期の売上高は163億円、現地通貨ベースの伸び率では、▲2.6%の減収となった。

いままでこの事業の成長を牽引していた米州の伸びがマイナスになったが、昨年は最高級クラスの刺しゅうミシンの新製品が非常に好調だったことから、ハードルが高かった影響もある。

欧州においては、ロシアは依然低調なもの、西欧諸国は非常に好調が続いている状況。

通期については、第3四半期での未達分を反映し、見通しを引き下げ。

産業機器の見通しを引き下げ

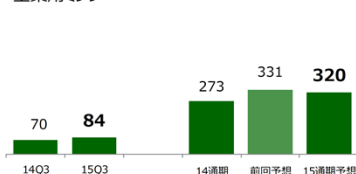
- ・工業用マシンは本縫い機新モデル効果により、中国・東南アジアで堅調が続く
- ・産業機器は、IT関連、中国向けとも受注低迷により、大幅下方修正



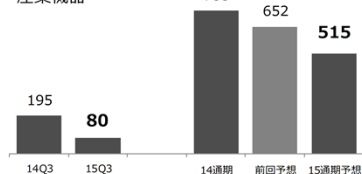
単位：億円

	14Q3	15Q3	伸び率	現通へ-1 伸び率	14通期	前回予想	15通期予想	対前年 伸び率	対前年 現通へ-1 伸び率
売上高	265	164	-38.0%	-38.9%	1,006	983	835	-17.0%	-20.1%
工業用マシン	70	84	20.1%	17.1%	273	331	320	17.2%	10.9%
米州	14	17	21.1%	15.0%	54	61	64	19.4%	9.9%
欧州	12	13	10.3%	19.0%	43	48	47	9.2%	14.7%
アジア他	43	53	22.6%	17.4%	169	215	203	19.8%	11.3%
日本	2	2	13.0%	13.0%	7	7	6	-13.5%	-13.5%
産業機器	195	80	-59.0%	-59.1%	733	652	515	-29.8%	-31.7%
米州	8	5	-29.9%	-	29	26	24	-14.6%	-
欧州	5	4	-22.7%	-	23	25	20	-14.5%	-
アジア他	164	51	-68.9%	-	622	529	398	-36.1%	-
日本	17	19	12.4%	-	59	71	73	23.0%	-
営業利益	42	17			162	134	99		

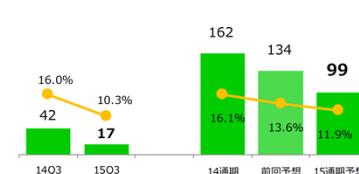
<売上高>
工業用マシン



<売上高>
産業機器



<営業利益>



© 2016 Brother Industries, Ltd. All Rights Reserved.

工業用マシンは好調で、中国・アジア地域では、本縫い機の戦略モデルが好調。
欧米では、ガーメントプリンターや、自動車産業向けのマシンが堅調。

産業機器は、自動車関連の内需向けはますますも、IT関連の受注回復が見えないこと、中国向けの需要が止まったままであることの影響が大きく、前年比6割減と大幅な減収となった。

通期の見通しについては、両事業とも着地を見据えた水準へと引き下げ。
特に産業機器は、第4四半期からIT向けが回復することを前提としていたが、回復の時期・規模とも不透明になったことから、今回大きく下方修正を実施。

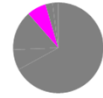
レンタル取引増加により、当期への損益貢献は限定的に

- ・通信カラオケ機器の新モデルは好評なものの、レンタル取引の増加により、当期の損益改善効果は想定を下回る

JOYSOUND MAX



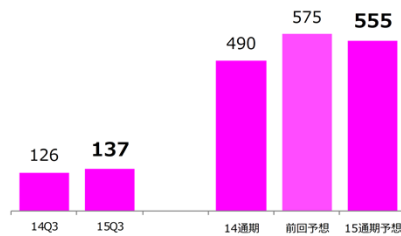
JOYSOUND 舞



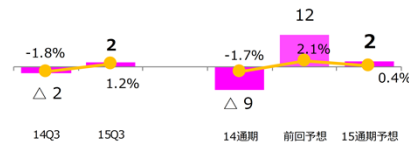
単位：億円

	14Q3	15Q3	伸び率	14通期	前回予想	15通期予想	対前年 伸び率
売上高	126	137	8.5%	490	575	555	13.4%
営業利益	-2	2		-9	12	2	

<売上高>



<営業利益>



新モデルの投入により売上・利益の拡大を期待していたが、想定よりもレンタルでの取引が多くなっており、当期への寄与が少なくなりました。

通期の見通しも、それに合わせ、売上・利益とも下方修正。

高効率ギアモーターの販売拡大

- ・国内市場では、IE3モーターの販売拡大を狙う
- ・北米・韓国での売り上げ拡大を目指す

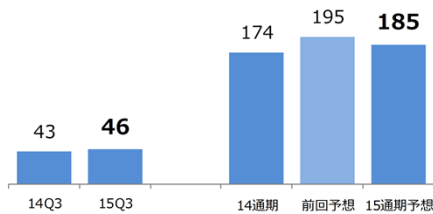
Nissei 株式会社 ニッセイ



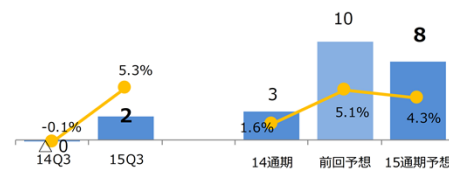
単位：億円

	14Q3	15Q3	伸び率	現通年vs 伸び率	14通期	前回予想	15通期予想	対前年 伸び率	対前年 現通年vs 伸び率
売上高	43	46	6.6%	5.6%	174	195	185	6.1%	4.7%
米州	6	7	33.5%	25.7%	23	30	28	22.9%	12.8%
アジア他	1	3	157.1%	157.6%	5	18	16	244.8%	243.6%
日本	36	35	-3.0%	-3.0%	147	147	141	-4.1%	-4.1%
営業利益	△0	2			3	10	8		

<売上高>

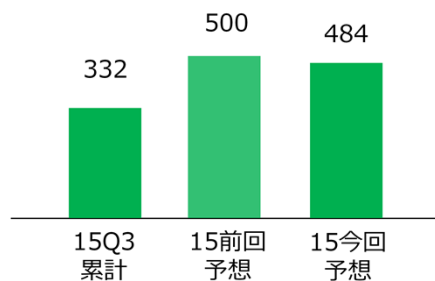


<営業利益>



概ね堅調に進んでおり、大きな懸念はない。

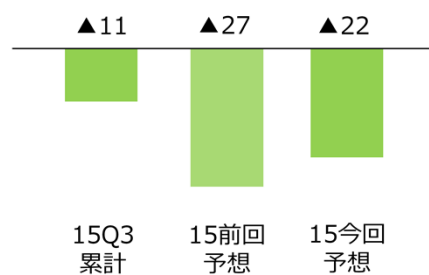
売上高 (億円)



※参考 地域別の対前年伸び率 (現地通貨ベース)

	累計実績
欧州	+5%
米州	0%
アジア	+7%
その他	+1%
計	+3%

営業利益 (億円)



※参考 ドミノ事業の営業利益の構成 (累計実績)

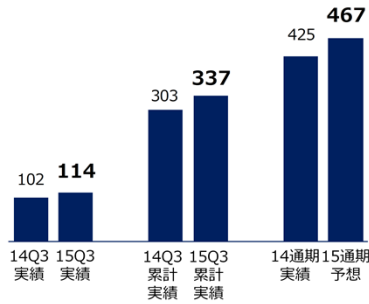
	累計実績
ドミノ社営業利益	50
のれん償却	▲35
無形資産償却	▲18
R&D費用化他*	▲8
ドミノ事業営業利益	▲11

*R&D費用化他は、IFRSからJ-GAAPへの調整額などを示す

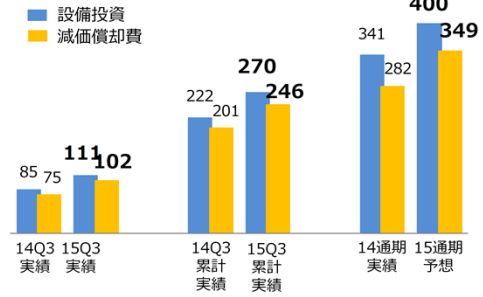
参考として、連結後の6ヶ月間の、地域別の売上高の伸び率を開示。

営業利益については、のれん償却および無形資産の償却費などの内訳を開示。

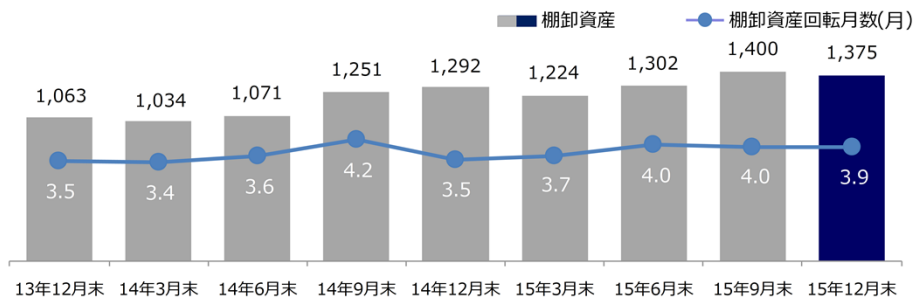
研究開発費
(億円)



設備投資・減価償却費
(億円)



棚卸資産
(億円)



※15年6月末の棚卸資産残高にはドミノ事業分を除外して表示しております
 ※棚卸資産回転月数 = 棚卸資産 ÷ (1ヶ月平均売上原価)

brother
at your side